



FRONTIER

教育・研究の最前線

新川崎タウンキャンパス開設20年にあたり

常任理事
青山藤詞郎
あおやまとうじろう

慶應義塾は、大学と大学院が6つのキャンパスに分散して教育研究を行っています。これに加えて、新川崎、鶴岡、殿町にタウンキャンパスを開設し、ここでは、産官学が連携をして、研究シーズや成果を社会実装することによる様々な形の社会貢献が行われています。新川崎タウンキャンパス（K²「ケイスクエア」タウンキャンパス）は、慶應義塾と川崎市が協定を結び、産官学連携による研究開発の拠点形成を目的として2000年4月に開設されたもので、慶應義塾の3つのタウンキャンパスの中で最も長い歴史を持っています。そして、今年4月で開設20年を迎えることになりました。

新川崎タウンキャンパスは、K棟、E棟、I棟、O棟という名称の4つの研究棟とK²ハウス（厚生棟）から構成され、開設以来、主として理工系の研究活動が行われています。環境情報学部の水浩教授（現・名誉教授）の研究チームによる未来の電気自動車 *Ellica*（エリカ）の開発、理工学部の大西公平教授（現・名誉教授、KGR I 特任教授）の研究チームによるハプティクス技術（利

用者に力、振動、動きなどを与えることで皮膚感覚フィードバックを得る技術）の研究、理工学部の小池康博教授の研究チームによる、ポリマー光ファイバーの開発は、大規模な研究施設の必要性に応じた環境を提供できる新川崎タウンキャンパスのもとで展開されたもので、いずれの研究も現在の社会における実用化技術のベースとなる最先端の成果を発信してきました。また、隣接するかわさき新産業創造センター（KBIC）や、東京大学、東京工業大学、早稲田大学と共同運営されている、4大学ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアム（NANOBIIC）と協調した研究活動が行われています。

新川崎タウンキャンパスは、鶴岡、殿町とともに、研究シーズの社会実装も含めた産官学連携のイノベーション拠点として、川崎市との新たな連携協定のもと、ますますの発展が期待されます。

〈新川崎タウンキャンパス〉

神奈川県川崎市幸区新川崎7-1

<http://www.k2.keio.ac.jp/access/index.html>